

「悪と戦え」

2019年03月01日

エフェソの信徒への手紙6章10節～17節 最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。だから、邪悪な日によく抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。立って、真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け、平和の福音を告げる準備を履物としなさい。なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができます。また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。

「著者」は、「最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神の武具を身に着けなさい」と、キリスト者は、神の偉大な力によって強くなり、悪魔の策略に対抗できるように、神の武具を身に着けなさいと言う。悪魔との戦いは、人間を相手にするのではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものである。「支配と権威、暗闇の世界の支配者」とは、主イエスが、「異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている（マルコ10：42）」ような、人間の尊厳を奪う権力ではないか。「天にいる悪の諸霊」とは、神と人間の間を切り裂くように働く悪霊であろう。これらは、主イエスが十字架の死によって罪を赦し、復活によって命を与え、神が「義」と「是認」した人間を否定する諸々の悪と理解していいのではないか。これらの悪と戦うために、邪悪な日があっても、全てを成し遂げてくださる神に信頼し、しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。まず、「立って」と書いている。寝ていては戦えない。自分の足で立つことである。

神の武具を、ローマ兵が身に着けている武具で例えている。「真理を帯として腰に締め」る。体の芯を支えるのが「帯」である。神は私たちを無限に無条件に愛してくださっているという真理が「帯」となる。「正義を胸当てとして着け」る。神の正義の「胸当て」で、上体を覆う。「平和の福音を告げる準備を履物としなさい。」足には平和の福音を伝える準備の「履物」を履く。パウロも「『良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか』と書いてあるとおりです」（ロマ10章15節）」と書いている。「信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができる。」信仰の盾が、悪魔の放つ火の矢をことごとく防ぐ。また、「救いを兜としてかぶ」る。神に救われている者であることを明確に示す。これらの武具は防御のためのものがある。ただ一つの武器は「霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい」と、神の言葉であると書いている。

ヨーロッパの教会に行くと、ペトロとパウロの銅像をよく見かける。ペトロは、主イエスから託された天国の鍵を持っている。パウロは長く、鋭い剣を持っている。パウロは宣教の戦いを、神の言葉のみを武器として戦ったのである。神の言葉である「剣」は、相手を殺す武器ではなく、神の確かな恵みを知らしめる武器であった。教会は、パウロに倣い、神の言葉を武器として、悪魔の策略に抗して、戦うのである。人間存在を否定する諸々の悪に、私たちは向き合っているかが問われている。